

【 会員からの投稿 】

「美(うま)し国づくり景観大賞」

NPO 法人 美し国づくり協会 CNCP 監事 山岡 和彦(たかひろ)

美し国づくり協会は 6 月 30 日の通常総会時に、「美し国づくり景観大賞」1 点と「特別賞」2 点を表彰しました。

「美し国づくり景観大賞」は協会設立 10 周年を記念して創設されました。事業概要は、『地域の個性を活かした良好な景観の創出、地域再生に寄与し、これを後世に引き継ぐ活動を行っている優良事例をビフォー・アフターに主眼を置いて選定し、その活動に取り組んでいる関係者を顕彰し、併せて受賞者を中心にシンポジウムを開催し、その概要等を出版物に纏め、美し国づくりの実践活動として広く全国に紹介し、世界に誇れる美し国づくりの理念の普及啓発と実践行動の推進を図ることを目的としております』(募集要項より)



応募作品 12 点を会員全員で篩にかけたのち、進士五十八協会理事長を委員長とする審査委員会で審査し、

- ・「美し国づくり景観大賞」には『東京都江戸川区：水辺風景の再生－水と緑と花、共に生きる豊かな暮らし』、

「特別賞」2 点は、

- ・『コウノトリ野生復帰推進連絡協議会：コウノトリと共に生きる地域を目指して～放鳥から 10 年を迎えた景観～』、

そして

- ・『東北地整、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市：景観に配慮した防護柵の設置による道路景観の形成』

が選定されました。

景観大賞に選ばれた東京都江戸川区は、終戦後相次いで来襲した台風で荒川や江戸川の氾濫や高潮被害に見舞われる状況でしたが、災害に強いまちづくりを目指し、土地区画整理や再開発、下水道の整備、内部河川の水位低下事業を施行しました。これと並行して環境をよくする運動に取組み、区民と一体となって公園整備や緑化、千本桜に代表される花のあるまちづくりを実現し、特に親水公園のアイデアは日本で初めてであり、日本各地に波及しただけでなく、韓国など海外にも影響を及ぼしております。これらの推進を多彩なボランティア活動が支え、良好な景観の創出・地域再生・次代への継続を官民渾然一体となって進めております。

特別賞の 1 点目コウノトリとの共生は、我が国最後の野生コウノトリが豊岡盆地で絶滅したことを憂いた有志が、その復帰を目指しロシアから寄贈されたペアを基に繁殖を重ね 25 年を経た現在 100 羽程度まで繁殖が進んでおります。ご存知のように、野生のコウノトリは田圃に生息するドジョウ等を食しますので、湿地や水田が不可欠です。

日本の原風景であった景観が宅地開発や水田の乾田化でなくなり、これに餌場を奪われ農薬の使用も追い打ちをかけ絶滅に至りました。現在、水田や湿地の復活で餌場を確保し、野生に返す個体数を増加させておりますが、個体数増加に伴って餌場の拡大が不可欠であり、活動の範囲を広げているとのこと。水田から収穫される「お米」が消費されなければ水田は維持できないため、関係者は「お米を食べてください」と訴えておられました。

特別賞の2点目である東北地整等の防護柵(ガードレール)の取組は、機能本位に陥りがちな防護柵を、景観を阻害しないようなデザイン・色に統一し、尚且つ地整だけの取組ではなく、東北地方一帯に活動を広げたということで、特筆される活動と思います。現在は800 km以上が整備され、毎年50~60 kmが追加整備されているということです。

表彰式後、受賞者の講演、国交省舟引大臣官房審議官より「景観緑三法の成立後10年の歩み」について講演があり、最後にパネルディスカッションが行われました。

これらの内容は、審査員のコメントを追加し日刊建設通信新聞社から出版されますのでご高覧賜りたいと存じます。また、協会の総会で「美し国づくり景観大賞」を10周年記念事業に終わらせることなく継続することが決議されましたので、美し国づくりに資する素晴らしい取組を今後も紹介して参ります。

